

## R7年度自己評価統計

			R7			R6			
			◎	○	△	◎	○	△	
I.保育実践	保育理念	幼保連携型認定こども園教育・保育要領について理解している	100.0%	0.0%	0.0%	17.4%	78.3%	4.3%	
		園の方針、教育・保育内容を理解し説明ができる	100.0%	0.0%	0.0%	13.0%	78.3%	8.7%	
	発達	担当クラスの子どもの発達を理解している	100.0%	0.0%	0.0%	59.1%	40.9%	0.0%	
		担当クラス前後の子どもの発達を理解している	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	
		0（または満3歳）～6歳までの発達を理解し見通しをもって実践できる	83.3%	0.0%	16.7%	36.4%	54.5%	9.1%	
		乳幼児の発達について伝えることができる	80.0%	0.0%	20.0%	36.4%	59.1%	4.5%	
	計画・実技	教育・保育目標（ねらい）を具体化する～実践可能な計画を立案できる	100.0%	0.0%	0.0%	35.3%	64.7%	0.0%	
		教育・保育計画、反省をまとめることができ、他のクラスに対しても話し合いができる	100.0%	0.0%	0.0%	23.5%	70.6%	5.9%	
		子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、教育・保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう先の見通しを持って、目標を深めた教育・保育計画ができる	100.0%	0.0%	0.0%	35.3%	64.7%	0.0%	
		ねらいを深め、明らかになった課題を新人、中堅と共有し、次のねらいにつなげている	85.7%	0.0%	14.3%	33.3%	61.1%	5.6%	
		基本的な教育・保育の流れを把握し対応できる	100.0%	0.0%	0.0%	38.1%	61.9%	0.0%	
		具体的な授乳、おむつ替えの方法、掃除の仕方、保護者への伝達の仕方、連絡帳や日誌の書き方、子どもとの遊び方、自然を生かした保育の修得が出来る	100.0%	0.0%	0.0%	42.9%	52.4%	4.8%	
		養護と教育とは、子どもの生活や遊びを通して相互に関係を持ちながら、総合的に展開されることを理解して保育している	87.5%	0.0%	12.5%	38.1%	57.1%	4.8%	
		より豊かな保育技術を追求している	77.8%	0.0%	22.2%	40.0%	50.0%	10.0%	
		自己研鑽し新人、中堅保育教諭へ継承している	42.9%	0.0%	57.1%	11.1%	61.1%	27.8%	
		食育	食育計画を作成し、日々の保育の中で子どもの状態を、担任だけでなく栄養士、調理員、家庭と伝え合い、より良い食事ができる協力体制をつくっている	33.3%	0.0%	66.7%	31.3%	43.8%	25.0%
			離乳食の進め方がわかる	66.7%	0.0%	33.3%	28.6%	52.4%	19.0%
	畑の活動を計画的に進め食育につなげている		37.5%	0.0%	62.5%	37.5%	43.8%	18.8%	
	植物アレルギーについて理解している		87.5%	0.0%	12.5%	30.0%	65.0%	5.0%	
	植物アレルギーを持つ子どもへの対応は、医師の診断・指示のもとに行うことを理解し説明ができる		70.0%	0.0%	30.0%	31.6%	63.2%	5.3%	
	健康・安全	SIDS（乳幼児突然死症候群）についてチェックすべき内容を理解している	88.9%	0.0%	11.1%	36.4%	59.1%	4.5%	
		子どもが使うもの、口にするものについて安全性を確認している	100.0%	0.0%	0.0%	45.5%	50.0%	4.5%	
		遊具消毒の必要性、方法を理解し自ら行っている	100.0%	0.0%	0.0%	43.5%	56.5%	0.0%	
		朝、帰りには室内の整理整頓をしている	100.0%	0.0%	0.0%	45.0%	55.0%	0.0%	
		子どもが出掛ける場所、道路（散歩ルート）、公園や施設の安全確認をしている	90.9%	0.0%	9.1%	50.0%	45.0%	5.0%	
		転落事故、ケガを防ぐ室内環境を考え実施している	100.0%	0.0%	0.0%	47.4%	52.6%	0.0%	
		安全管理（緊急、災害、事故対策）を理解している	77.8%	0.0%	22.2%	23.8%	71.4%	4.8%	
		安全管理を理解し対応できる	71.4%	0.0%	28.6%	14.3%	85.7%	0.0%	
		安全管理に関して発生時の対策を知りリーダーシップがとれる	50.0%	0.0%	50.0%	18.8%	56.3%	25.0%	
		緊急、災害、事故発生時には中心的な役割を担う	25.0%	0.0%	75.0%	26.7%	33.3%	40.0%	
	家庭との連携	保育を通して信頼関係を育てる	88.9%	0.0%	11.1%	52.6%	47.4%	0.0%	
		保護者の気持ちに寄り添いながら家庭との連携を密にする	100.0%	0.0%	0.0%	55.6%	44.4%	0.0%	
		保護者の養育力（子育て力）の向上につながるよう支援をする	100.0%	0.0%	0.0%	27.8%	66.7%	5.6%	
		保護者の相談、助言に対しては気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基礎に保護者の自己決定を尊重することが出来る（保育教諭の思いを押し付けない）	100.0%	0.0%	0.0%	38.9%	61.1%	0.0%	
		子育て支援事業	地域の人たちと心地よい関係を築き、必要によっては支援ができる	33.3%	0.0%	66.7%	13.3%	40.0%	46.7%
	子育て支援活動の立案と実施		22.2%	0.0%	77.8%	13.3%	26.7%	60.0%	
	II.保育を支える 組織的基盤	人間関係 （コミュニケーション能力）	社会人としての態度、会話が身に付けられている	88.9%	0.0%	11.1%	34.8%	65.2%	0.0%
			他者の考えや意見をよく聞き尊重できる	100.0%	0.0%	0.0%	47.8%	52.2%	0.0%
			自分の意見をわかりやすく伝えることができる	85.7%	0.0%	14.3%	17.4%	65.2%	17.4%
			困っていること、悩みについて同僚や上司に相談できる	71.4%	0.0%	28.6%	17.4%	73.9%	8.7%

R7年度自己評価統計

	子どものこと、クラスのこと、保護者対応など必要なことを主任、園長への報告、連絡、相談する	100.0%	0.0%	0.0%	47.6%	47.6%	4.8%
	指示待ちでなく自ら進んで物事に取り組むことができる	88.9%	0.0%	11.1%	39.1%	56.5%	4.3%
	新人に関心を持ち、話を聞くことができる	71.4%	0.0%	28.6%	26.3%	57.9%	15.8%
	チームメンバーとしての役割を果たす * 週案・学年会議や職員会議の中で発言ができる	85.7%	0.0%	14.3%	20.0%	66.7%	13.3%
	* 乳児クラス、幼児クラス内の事を把握し職員同士援助ができる	66.7%	0.0%	33.3%	17.6%	70.6%	11.8%
	リーダーとしてチームメンバーと協働し、相互理解を深めることができる	63.6%	0.0%	36.4%	15.4%	46.2%	38.5%
	園内外の関係者との信頼関係を築き連携できる	42.9%	0.0%	57.1%	16.7%	55.6%	27.8%
	職員的能力を最大限引き出し、自発的な行動を促進することができる	33.3%	0.0%	66.7%	12.5%	50.0%	37.5%
	自己の持つ影響力を理解し、行動することでより一層よい職場環境づくりができる	42.9%	0.0%	57.1%	17.6%	47.1%	35.3%
教育性	専門職としてのスキルアップのため積極的に研修に参加する	55.6%	0.0%	44.4%	26.3%	31.6%	42.1%
	教育・保育情勢、社会情勢を学ぼうとする	70.0%	0.0%	30.0%	36.8%	52.6%	10.5%
	各自の力量アップと同時に若手世代への教育役を担う	37.5%	0.0%	62.5%	13.3%	40.0%	46.7%
	若手、中堅世代から目指されるべき世代として指導的立場と業務改善の中心的役割を担う	33.3%	0.0%	66.7%	13.3%	40.0%	46.7%
守秘義務	守秘義務の決まりを厳守する	100.0%	0.0%	0.0%	68.2%	31.8%	0.0%

R6・R7 自己評価集計 分析まとめ

① 全体的な傾向

R7はR6と比較して、ほぼ全項目で「◎」の割合が大幅に向上しています。

R6では「◎・○・△」が分散していましたが、R7では○がほぼ消え、「◎/△」の二極化が見られます。

特に 保育の基本理解・日常実践・安全管理・家庭連携 は、R7で到達度が明確に上がっています。

園全体としての基礎力・共通理解はR7で大きく底上げされたのではないのでしょうか。

② 領域別分析

I. 保育実践

【1】保育理念・発達理解

R6：○◎が3～6割程度 → R7：ほぼすべて ◎が80～100%

【2】計画・実技

R6：○計画立案・振り返り・共有は ◎3～4割 → R7：多くの項目で ◎100%

ただし、リーダー層の育成・継承は課題として残ります。

【3】食育

R6：◎が2～3割 → R7：一部項目では ◎3～6割まで上昇したが、「食育の協体制」 「子ども・家庭・栄養士との連携」は△が多い。

【4】健康・安全

R6：基本的な安全行動は ◎4～5割、緊急時の主体性は低め → R7：日常の安全管理は ◎80～100%。

一方で、「緊急・災害時のリーダーシップ」「中心的役割を担う」は ◎25～50%、△が多い。

II. 保育を支える力

【1】人間関係・組織的基盤

R6：コミュニケーション・主体性は ◎2～4割 → R7：多くの項目で ◎70～100%

【2】リーダー性・育成力

R7でも次の項目は △が目立つ。

「職員的能力を引き出す」「組織改善の中心的役割」「若手・中堅育成」

【3】専門性・研修意識

R6：◎が20%～30% → R7：55%～70% と意識の向上が見られる。

③次年度に向け

R7の自己評価では、保育実践および日常業務における理解と実行力が大きく向上し、園としての基礎力が安定してきた。

一方で、リーダーシップ、人材育成、緊急時対応など役割遂行を伴う項目では課題が明確となった。

次年度は、職員一人ひとりの力量を踏まえた役割分担と、育成・継承を意識した体制づくりを進めていく必要がある。

総括

R7年度の自己評価においては、保育実践および保育を支える組織的な力の両領域で「◎」評価が大きく増加し、

園としての基礎的な保育力・共通理解が着実に定着していることが確認できた。

特に、教育・保育要領の理解、日常の保育実践、安全管理、保護者対応等においては、多くの職員が高い到達度を示しており、

これまでの園内研修や日々の実践の積み重ねが成果として表れている。

一方で、自己評価において「△」評価が一定数見られた項目として、リーダーシップの発揮、人材育成・継承、非常時における中心的役割の遂行、

子育て支援や食育の組織的な推進等が挙げられる。これらの項目は、個々の保育実践力だけでなく、役割意識や組織全体を見通す力を要する内容であり、

次の段階として取り組むべき課題が明確になった。